

第7回 (仮称)岩槻人形会館開設準備委員会 議事録概要

- 1 日 時 平成23年11月18日(金) 11:00~12:00
- 2 会 場 大宮区役所大会議室1・2
- 3 出席者 【委員】林委員長、大越委員、田島委員、戸塚委員、井藤委員、新井委員
【事務局】市民・スポーツ文化局 小山局長
スポーツ文化部 野間部長、服部次長、桑原参与
文化施設建設準備室 伊藤室長、川田主査、内田主任
菅原学芸員、平井学芸員
是澤副委員長、村上委員は所用のため欠席。

4 次 第

- (1)開 会
- (2)局長あいさつ
- (3)議 題
支援組織づくりについて
資料整理状況について
- (4)その他
- (5)閉 会

配布資料

- 書類番号1-1 (仮称)岩槻人形会館の支援組織づくりについて
- 書類番号1-2 (仮称)岩槻人形会館の支援づくりについて(アンケート実施内容)
- 書類番号2 資料整理状況について

5 議題について

(1)支援組織づくりについて

委員長：支援組織づくりについて、事務局より説明願います。

事務局：(支援組織づくりについて説明を行う)

事務局：補足ですが、どういう組織づくりをすべきか、事業も含めてG委員を中心に全体の構想が検討されています。次年度以降の事業も含め、本年度の課題も抽出しています。

委員長：6月の第1週以降、(仮称)岩槻人形会館戦略形成チーム準備会(以下「準備会」という。)を開催する中で、7月以降、具体的な支援の形が検討されているようで、また実施されたアンケートについても興味深いものとなっています。このアンケートの回収数は300となっていますが、配布の数はいくつですか。

事務局：その場で書いてもらって回収したため、配布と回収は同数です。

委員長：それではこの説明について、質問や提言を委員からいただきたいと思います。

A委員：お祭りイベントの認知度ですが、複数回答になっているとしても、流し雛イベントを知っているという数字が13%というのは低い数字と思いますが。

B委員：これは、回答数の総数を母数とした円グラフとしているためだと思います。左の表の回答数で見ると、300人のうち253人が知っているので、認知度は80%を超えています。問2の「誇れるところは」という問に「城跡」が50%とありますが、これも数字がわかりにくくなっています。

A委員：それで安心しました。あまりに人形の認知度が低かったのです。

事務局：準備会で具体的な分析を現在行っているところです。その結果を受けて再度ご説明させていただきます。

B委員：前回の委員会では、学生が実施した小・中・高校生へのアンケートをご紹介しましたが、その中で、「岩槻の文化の何に興味があるか」という問に、小・中学生の30%が人形と答えています。今回は、前回のアンケートと設問が異なっていますが、今回のアンケートの特徴は回答者のほとんどが高齢者であるという事。アンケートを実施したブースに来る人なので、少し偏向している印象を受けました。私たちの前回のアンケートでも、20～30歳代の人々の意見

は採っておらず、今回のアンケートでもその年代の意見が欠落しているので注意する必要があると思います。また30年以上岩槻に住んでいる人が60%とあり、永く住んでいる人から見た岩槻像であると捉える必要があります。城跡、人形、文化についてプライドを持っておられる。心強い結果だと思います。人形イベントを8割以上の人が知っています。50～60%というのは認知度に問題は無いと判断できるので、人形に関するイベントが地域に根付いていると言って良いと思います。自治会組織を構成する人々なども中高年以上となっています。そういった組織に訴えて、コミュニケーションを図っていく事が必要でしょう。

委員長：施設のPRを進めていく上で、アンケートは貴重な情報を伝えてくれると思います。

C委員：準備会は活発に活動しており、検討会の頻度も高いようです。地元のお菓子屋さんがこの組織のおかげで人形会館の必要性がよくわかったと言っていました。また他のメンバーの方も会議が大変有意義で、G委員や外部講師の話は、仕事の上でも参考になるという事です。近々、準備会が人形会館などについてA4のチラシを作ると聞きました。良い事だと思います。

委員長：アンケートのデータを使いながら、より活発なPR活動を進めて欲しいですね。

A委員：高齢者の取り込みは必要ですが、この公園でのイベントには若い人がこないという事でしょうか。人形会館はそれで良いとは思っていません。逆に考えると、子どもや若い親へのアプローチが必要ということがこのアンケートからわかります。

B委員：アンケートを書いた人とお祭りに来た人の年齢のギャップはあるのですか。

事務局：家族連れもいましたが、20～30歳代の来場者が少なかったと思います。本当に小さな子供とほとんどが高齢の方でした。物産販売が開催された事もその原因かもしれません。

委員長：これから若い世代をいかに掘り起こしていくかという話でしょうか。当面は

女性と高齢者を集客すると。オープンに向けて、どういうねらいで広報をしていくか、展示をどう準備すべきかでしょう。

B委員：生徒に対してのアンケートの部分ですが、「人形に興味がありますか」という問いに、半数の人があると答えているのに、「作ってみたいか」という問いには意見がわかれました。人形づくりを体験している学区の中学生は、「もう1度体験したい」という意見と、「もう体験しなくてよい」とする意見がはっきりとわかれました。それ以外の学区の生徒には「人形づくりを体験してみたい」という答えが多くありました。人形づくりをした事が無い子どもたちが体験できる場所、そこに一つのマーケットがある事がわかりました。

事務局：今後、既存のイベントにおいて、岩槻区民に対して、どうPRしていくのか、詳しく議論して進めていきたいと考えています。

委員長：準備会の活動と、検討委員会の活動を連動しながら進めて頂きたい。

C委員：若い母親の取り込みですが、人形会館のすぐ下がわんぱく広場となっています。金沢の21世紀美術館はどこからでも施設に入る事ができ、デートスポット、待ち合わせの場所、お茶を飲んだり休憩する場所として市民が使用しています。そういう開放的な施設にすると良いと思います。

委員長：参加型がポイント、また、ある程度開放的な施設というご意見でした。具体的な施設づくりに反映していただければ良い。

(2)資料整理状況について

委員長：次に資料整理について、事務局から説明をお願いします。

事務局：(資料の整理状況について説明が行われる)

委員長：資料整理は進んでいるようですが、資料の整理について何かご質問やご確認がある方はお願いします。

D委員：資料の手当についてお聞きします。実際に展示するとなると、今確認している

人形と異なるものが必要になるのでは。オープン時に他の館の資料を借用できるのでしょうか。資料収集について最近の考え方はどうですか。

事務局：現在、学芸員が整理を行っています。最初に展示するものはあるが、何年か経っての展示替えには新しいものや目先の変わったものも必要で、購入するという手法もあるが、寄託・寄贈していただくこともあり得る。今後、学芸員と話し合いをしながら進めていきたいと考えています。

D委員：研究的な資料だけになるのではなく、展示する事も考えていただきたい。

委員長：コレクションについては、資料を収集できる環境を作っていく事が必要と思います。現在把握している資料でも、常設展示をある程度行うことができる内容となっていますが、これの2倍、3倍の資料があれば、将来にわたって常設展示を維持しやすくなると思います。

D委員：収集の方法の一つとして、寄贈してもらおうとあったが、寄贈の受付窓口が市民にわかるように進めているのですか。

事務局：市民から市役所に問い合わせがあります。その際に準備室に電話を回してもらっています。

事務局：既に北区から、製作された時代が明確な雛人形の寄贈がありました。どのような人形でも寄贈を受けつけるのでは無く、収集方針を固めた上で寄贈を受け入れたいと考えています。北区から1点、また他にも申し込みがありますが、中には新しい人形もあり、精査が必要です。

委員長：資料評価委員会の準備はどうなっていますか。

事務局：現在準備中で、本年度中には立ち上げを考えています。局内での了解は得ているので、タイミングを見て準備を進めたいと考えています。

委員長：人形の専門家ではありませんが、展示のアドバイザーとして検討に参加させてもらっています。現在プラザノースで資料整理が行われていますが、人形会館

の準備室をきちんと設置すべきと思います。さまざまな作業や情報発進を行うにしても、場所が必要です。そうでないと市役所の中でも存在をアピールできないと思います。

A委員：寄贈の申し入れは多いのですか。

事務局：散見されます。先日、越谷市にお住まいの方から、家人が度々海外に行った際に土産として買って来た人形があるが、受け入れてくれないかということでお見えになりました。写真を拝見すると土産物で、展示にはなじまないと判断し、当方よりお断りしました。

A委員：これから申し入れが多くなると思います。そういった際に断ることは難しい。その際に誰もが納得できる方針がないといけないと思います。せっかくいただいても活用の機会が無いとなるといけないので、まず収集方針をたてる必要があります。今後欠かせないものなので、早く決めた方が良いでしょう。

委員長：収集方針の検討についてよろしくをお願いします。

(3)その他

委員長：その他、何かありますか。

事務局：次回の委員会は年度末の開催になるかと思います。状況によっては日程が変更になるかもしれません。

A委員：なるべく早く広報活動を進めていただきたい。次回の委員会ではその案を出していただけるのですか。

準備室：検討させていただきたい。

委員長：施設の案内を行うリーフレットのようなものを作成しますか。

準備室：準備会でまずチラシを作成します。マーケティングの専門家に構成を考えてもらっています。

委員長：それは委員会の前ですか。

事務局：そうです。まちかど難めぐりでチラシを配布することを考えています。若い人たちに配布をお願いしようと考えています。

A委員：準備会に頼るばかりでなく、もう少し準備室でも活動すべきではないかと思えます。

委員長：他にないですか。それでは、これにて委員会を終了いたします。

以上